

第8回 多文化子ども教育フォーラム

ブラジル人保護者は何をを考えているか —趣旨説明—

2014年6月14日(土) 於静岡文化芸術大学

静岡文化芸術大学 文化政策学部

国際文化学科 教授 池上 重弘

<http://wwwt.suac.ac.jp/~ikegami/>

HP 池上重弘研究室



静岡文化芸術大学で学ぶ 移住第2世代の若者たち

入学 年度	文化政策 学部	デザイン 学部
2006	1	
2007		
2008		2
2009		
2010		
2011	2	
2012	4	
2013	4	

- ◇ 高校・大学進学も確実に増加
- ◇ 地域活動の担い手としても台頭

Cinthia Yukimi Miyagi
宮城ユキミ 日本xブラジル
大学生 18歳
7年前来日。日本の小学校6年に編入。ブラジルと日本の言葉と文化の違いに戸惑いを感じたが、同じ外国語の友達、学校の先生、親の支えで進学。現在国際文化を学ぶため大学に在籍中。

Nguyen Luong Xuan Anh Khoi
高山春樹 日本xベトナム
不器用・積極的な 26歳
日本生まれ。日本育ち。両親はベトナム人。小学校4年でアメリカに移住したが生活に慣れず日本を離れ、日本の小・中・高・大に進む。高・大では異文化に興味を持ち国際文化学科に在籍。卒業後は地元の不器用なデザイナーとして働く。仕事上でも外国人と接する機会があり、自分なりにお手伝いできればと思います。

Emiko Joy Abe
阿部恵美子 日本xフィリピン
専門学校 教養部門 22歳
日本人の父、フィリピン人の母との間に生まれる。日本人として育てられる。1歳で移住し、14歳から日本へアメリカ人の家庭教師で生活。現在、教会や能力で出会う様々な人々との関わりを通して多文化、異文化、考え方を学んでいる。日本人、在日外国人、日本人などの様々な価値観を持つ人々に、自分に得意な伝え方をするようなメッセージを贈りたいと思っています。

Aline Yukary
鈴木由香里 日本xブラジル
大学生 19歳
ブラジル生まれの日本ブラジル人。何處も国籍を行使し、中学2年から日本の学校に編入。高校はインターナショナルクラスの生徒が多く通学。国際的に興味を持ち、現在地元の大学で国際文化学科を専攻。自身の経験を通して皆さんに少しでもお役に立てたらと思います。

Mariana Yurie Ugawa
小川ユヰ 日本xブラジル
専攻員 23歳
日系ブラジル人3世代。ブラジル生まれ。日本育ち。小学校から大学まで日本の学校に通い、今年から国際国際交流協会(HICE)に所属。同じようなルーツの人たちに多くのメッセージを伝えられたらと思います。

Harumi Nako Gushiken
名幸春美 日本xペルー
多文化共生コーディネーター 32歳
祖父母がペルーへ移住。ペルーで生まれ育ち。高校卒業後日本へ来日し、上場企業に就職。リーマンショック影響で仕事を失った後、外国人のための日本語研修所・国際的なコーディネーターとして働き始める。それがきっかけで多文化共生に関心を持ち、国際NPOネットワークセンターで多文化共生を学ぶ。

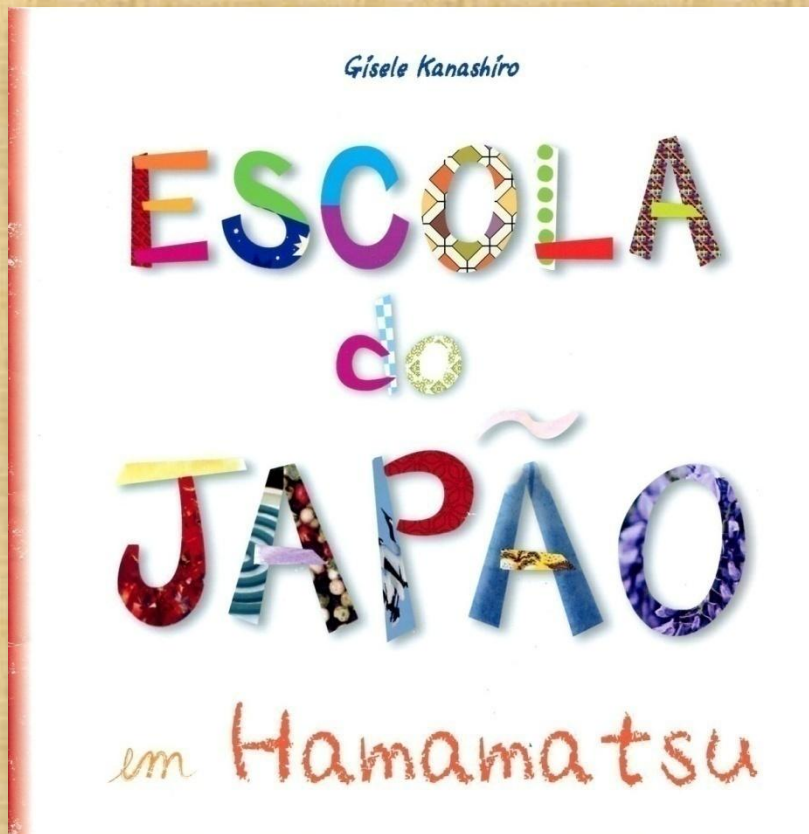
国際交流イベント、海外にルーツを持つ若者向けのイベントに多数出演する
話題のバンド SUNCHILD ゲスト出演決定★
「太陽の子ども」を意味する。太陽のような唯一の存在をコンセプトにグッドミュージックを届ける音楽仲間が集まり、バンドリーダーのThiago(vo/p)は、ブラジル(SP)生まれで、10歳のときに来日。そのルーツ関係、色彩豊かな発想で、SUNCHILDのコンセプトでもある「独創的で良質な音楽(good music)」を追求している。さまざまなジャンルの音楽をミックスし、独自の音楽スタイルを追求。2012年2月に東京で行われた初のワンマンライブは会場を満員にし、多くの音楽ファンを魅了。現在1stミニアルバム「RISING」を絶賛発売中。2013年1月20日下北沢regでライブが決定！！

はままつグローバルフェア
国にルーツを持つ若者のトークイベントx音楽ライブ
可能性へ向けての RESTART 再出発
ブラジル、フィリピン、ペルー、ベトナムにルーツを持つ大学生・社会人たちが
日本での学校生活・習慣・言語の違い
自分が持つアイデンティティ
そして、様々な困難を乗り越えてきた経験や思いを語ります。
2月10日(日)
無料 11:00-13:00
クリエート浜松 2階ホール中區早馬2-1
※お問い合わせ先
(公財)浜松国際交流協会(HICE)
TEL: 053-458-2170

はままつグローバルフェア(2013年2月10日)

ブラジル人児童向け学校生活導入絵本 (作: 金城ジゼレ、生産造形学科2012年度卒業制作)

「浜松における日本の学校」表紙



目次

O dia-a-dia na escola Japonesa	
にほんのがっこうのせいかつ	
●	Materials e o dia-a-dia na escola がっこうでつかうものとがっこうのいちにち
●	Os principais materiais usados na escola がっこうでつかうきょうざいやもちもの
●	Como ir à escola とうこう
●	Chegando na escola がっこうについたら
●	A hora da merenda きゅうしよく
●	A hora do recreio e a limpeza ひるやすみとそうじ
●	Após a aula ほうかご
●	Quando for faltar おやすみするとき
●	Eventos na escola がっこうぎょうじ
●	Reuniões e visitas めいだんやほうもん
●	Final さいごに

- ブラジル人児童向け
- 入学ガイダンス絵本
- 日本語／ポルトガル語の
バイリンガル絵本
- 自分の経験をもとに取材

給食の準備



É a hora do almoço! Fazemos revezamento para servir a merenda.
Os alunos responsáveis pela a merenda arrumam a mesa para servir.
きゅうしよくのじかんだよ！グループごとにこうたいできゅうしよくとうばんを
するよ。きゅうしよくとうばんがはいぜんだいをよういするよ。

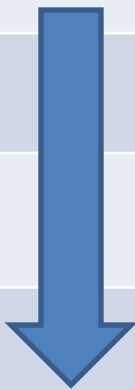
給食に関連する言葉の説明

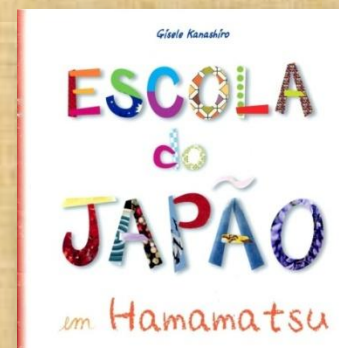


Estes são os materiais usados na hora da merenda, o "kyusyoku-set".
これがきゅうしよくのじかんにつかうきゅうしよくセットだよ。

日本の小学校が
楽しみに becoming するように！

2013年度文化・芸術研究センター長特別研究
 「多文化環境に生きる子どもの教育達成支援策をめぐる研究」
 (研究代表:池上重弘、他4名、計5名の教員)

	絵本	家庭訪問調査 (ブラジル人学生)
6月	印刷準備	
7月	印刷	
8月		
9月	配布活用	
10月		
11月		
12月		
		(11月中旬～ 12月中旬) 



ブラジル人卒業生が作った
 バイリンガルUD絵本を、
 ブラジル人の在校生たちが、
 ブラジル人の小学生に
想いのボタンとして届ける！

UD絵本を持った
 ロールモデルの
 デリバリー

家庭訪問調査

県

(第三種郵便物認可)

静岡文化芸術大・ブラジル人学生

学ぶ意欲支援へ 家庭訪問で説明

P.19 静岡 2013.11.16

浜松市中区の静岡文化芸術大に在籍するブラジル人学生6人によるブラジル人家庭への訪問プロジェクトが16日、始動する。同じ境遇に育ちながら大学進学を果たした学生が実体験を伝えることで、親や子供の学習や高等教育への動機を高めるのが狙い。同大の池上重弘教授と学生6人が15日、同大で会見し、抱負を語った。

実体験伝え「絵本」活用

家庭訪問では、ブラジル人児童向けの学校生活案内冊子「バイリンガル絵本」を活用する。学生は2人1組で、希望のあった市内43世帯を巡り、学校生活について説明したり、保護者からの質問に答えたりする。

同大1年の三宅・エベルトン・アキさん(20)は小、中学をブラジル人学校に通い、中学卒業後に1年間、勉強して日本の定時制高校に合格、推薦で大学に進学した。自分と同じ境遇の人を支え



会場で家庭訪問への意欲を語る学生ら。浜松市中区の静岡文化芸術大

布されている。給食、昼休みや掃除の時間の過ごし方や必要な持ち物などを紹介。同大の池上重弘教授は「親に日本の教育制度に対する理解を促し、子供に学びたいと思わせる内容になっている」と説明する。

バイリンガル絵本 静岡文化芸術大出身の会社員金城ジゼレさんが2012年度の卒業制作で手掛けた、日本語とポルトガル語で日本の学校生活を案内する冊子。市教委を通じて市内の小学校やブラジル人家庭に配

記者会見時 2013年11月16日(静岡新聞)

県

県

県

中日

2014年(平成26年)1月12日(日曜日)

22

ブラジル人児童の教育環境で課題

進学情報が不十分

外国人の教育環境を話し合う多文化子ども教育フォーラムが11日、浜松市中区の市地域情報センターで開かれた。ブラジル人児童の家庭訪問をした静岡文化芸術大(同区)のブラジルの学生たちが「進学の情報に十分に行き渡っていない」などと課題を指摘した。



会場からの質問に答える静岡文化芸術大のブラジル人学生。浜松市中区の市地域情報センターで

同大主催で、学校に通う子どもがいるブラジル人の保護者ら3千人が参加し、ポルトガル語と日本語の同時通訳が進められた。学生たちは大学で学ぶ自分の姿を見せることで、保護者や子どもにも進学への意欲を高めてもらうと家庭訪問をした。昨年十一月から市内の十二世帯を訪れ、保護者らの教育に関する悩みなども聞いた。発表した三年の岡崎ケンジさんと二年の宮城ユキミさんは情報不足のほか、外国人同士のように、悩む家庭があったと報告した。「自分たちが小生のころはなかったことで驚いた」「ブラジル人同士で助け合うことが大切」と話した。ブラジルの学生による大学進学までの実体験の紹介もあり、「子どもが進学したいと言った、必ず応援してほしい」と保護者らに訴えた。意見交換は会場から「高校に入る子どもが少ない。まずはその壁を越えたい」との声も出た。

中区でフォーラム 同郷の文化芸大生が指摘



浜松・報道部
〒435-8555
浜松市東区
薬新書145
053(421)6036
(FAX)
053(421)5218
湖西支局
053(576)5081
(FAX)
053(576)5078
細江通信部
053(523)0661
(FAX)
053(523)2674
天竜通信部
053(925)2540
(FAX)
053(922)0003
浜北通信部
053(587)5831
(FAX)
053(586)7911
静岡総局
054(255)2121
(FAX)
054(255)2124
豊橋総局
0532(52)7181
(FAX)
0532(54)4655

購読のお申し込み
0120-139-739
広告のお申し込み
053(421)9118
折り込みのお申し込み
053(466)0547

ポルトガル語での討論会

2014年1月12日(中日新聞)

討論会の全貌をまとめた報告書は

本学学術リポジトリからダウンロード可能

(多文化子ども教育フォーラムHPからたどりつけます)